

演じるシニア 2018 とは...

舞台芸術研究センターでは2013年度に「演じるシニア」企画として60歳以上の一般の方を募集して作品創作を行ない上演(『レジェンド・オブ・LIVE』構成・演出:杉原邦生)。会場は笑いと感動の渦に巻き込まれました。その第二弾として、新たに60歳以上の出演者を募集。“春秋座の舞台に立つ”を目標に、新進気鋭の演出家・杉原邦生氏と共に2018年夏に本格的な舞台作品を上演します。公演を支えるスタッフワークを担うプロジェクトメンバー、京都造形芸術大学の学生も加わり、幅広い年齢層で作品創作を行います。

👉 プロジェクトメンバーが、公式 **instaglam** で公演を盛り上げます!

👉 劇場Twitter、Facebookも要チェック! #春秋座サバイバース



詳しくは中面へ

演じるシニア 2018 帰ってきた、春秋座サバイバース 『レジェンド・オブ・LIVE II』

2018年 8月25日(土)、26日(日) 両日とも14時開演 ※開場は開演の30分前

〈チケット料金〉全席指定・税込

一般 2,000円 / 京都芸術劇場友の会 1,500円
学生&ユース 1,000円

※ユースは25歳以下 ※学生&ユースは要証明書提示 ※未就学児膝上入場可
※学生&ユースは京都芸術劇場チケットセンター(劇場オンラインチケットストアを含む)、大学生協のみ取り扱い。
※車椅子をご利用のお客様・足の不自由なお客様は、京都芸術劇場チケットセンター(075-791-8240)へお申込み・お問い合わせ下さい。
※当劇場2階席への移動は階段のみとなります。

〈前売開始〉

● 京都芸術劇場友の会先行発売... 5月15日(火)10時~

※友の会先行発売は5月7日(月)までのご入会でご利用いただけます。
ご入会方法はウェブサイトをご覧ください。

● 一般発売... 5月16日(水)10時~

〈構成・演出・美術〉 杉原邦生 [KUNIO]

〈出演〉五十音順

AKKO、石田和子、石橋忠昭、大杉ロン、大西芳江、岡本和男、小川彪雄、加藤和子、熊本マリ子、黒田悦子、桑原弘子、小島順一、五藤和恵、佐藤優子、たかの亜都子、高見潤子、田中賢一、タミ、ちゃんち、土居和子、中田貞代、長田美穂子、中野朝子、BAL・BARA、東 昭、藤崎正之、ふじむらみつる、帆夏じゅん、松本美智子、村尾敏彦、森川稔、山地美子、山田麻理、山村みどり、吉田征郎、米田美恵子
【学生】諏訪七海、田尻咲良、広岡幸永

〈プロジェクトメンバー〉

上田達、菊地もなみ、中村べしめ、藤井浩子、松村珠子 【学生】石口さくら、千代麻央

〈スタッフ〉

構成・演出・美術:杉原邦生 舞台監督:大鹿展明 照明:魚森理恵 演出助手:本間広大
宣伝美術:井川萌 宣伝写真:堀川高志 制作:小林みほ、加藤伸葉
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 制作:井出亮、河本彩 広報:今井尚美

企画協力:KUNIO
企画・製作・主催:京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会
京都芸術センター制作支援事業

後援:京都新聞、京都市教育委員会(申請中)
主催・お問合せ:京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター TEL. 075-791-9207

〈チケット取扱い〉

● 京都芸術劇場チケットセンター
TEL. 075-791-8240 (平日10時~17時)

● 劇場オンラインチケットストア ※要会員登録(無料)
パソコンから <http://www.k-pac.org/>
携帯から <http://www.k-pac.org/theatre/m/m>

● チケットぴあ <http://t.pia.jp>
TEL. 0570-02-9999 (Pコード:485-875)

● イープラス <http://eplus.jp>

● 京都新聞文化センター(京都新聞社1F) TEL. 075-256-0007
(窓口のみ/10時~17時※土・日・祝除く)

● 京都・滋賀各大学生協プレイガイド

〈託児サービス〉

8月26日(日)14:00の回では、託児サービスをご利用いただけます。
(有料・要事前予約)
対象:生後6ヶ月以上7歳未満/料金:お子様1名につき1,500円
申込期間:5月16日(水)~8月17日(金)17:00まで
お申込み・お問い合わせ
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター TEL. 075-791-9207(平日10~17時)

京都芸術劇場 春秋座

京都市左京区北白川瓜生山 2-116 (京都造形芸術大学内)

● JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5号系統「岩倉」行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
● 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204号系統銀閣寺行に乗車(約15分)、
「上終町・京都造形芸大前」下車
● 京阪電車出町柳駅から
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクのご来場はお断りいたします。
※所要時間はあくまで目安です。交通事情により大きく変動します。



カッコイイ人たちと再び 〈伝説〉をつくる。



構成・演出・美術

杉原邦生

演出家、舞台美術家、KUNIO主宰。

1982年生まれ。国内外の骨太な戯曲の本質を浮き彫りにしてみせると同時に、観客の予測を裏切るような挑発的な仕掛けや、ポップでダイナミックでありながらも繊細な演出が特長。2004年、自身が様々な作品を演出する場として、プロデュース公演カンパニー“KUNIO”を立ち上げる。主なKUNIO作品に、上演時間が約8時間半にも及ぶ大作KUNIO09『エンジェルス・イン・アメリカ』(作:トニー・クシュナー)、大学の恩師でもある太田省吾の名作を鮮烈に蘇らせたKUNIO10『更地』、最古のテキスト“Q1”バージョンを新訳で上演したKUNIO11『ハムレット』(作:ウィリアム・シェイクスピア)、劇団ままごとの柴幸厚氏に新作書き下ろしを依頼したKUNIO12『TATAMI』などがある。モノノ下歌舞伎には2006年から2017年5月未まで企画員として参加。『三番叟』『東海道四谷怪談-通し上演-』『勸進帳』など11演目を演出。2013年に上演した『黒塚』で「CoRich 舞台芸術まつり2013春」グランプリ受賞、『三人吉三』では「2015年読売演劇大賞上半期作品賞」にノミネートされるなど、話題作を発表してきた。近年の外部作品に、KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『ルーツ』(脚本:松井周)、創生劇場『やわらかなかくら』(脚本:いしいしんじ)、八月納涼歌舞伎『東海道中膝栗毛』(構成のみ/演出:市川猿之助)がある。ゼノン文化財団シニアフェロー。

<http://www.kunio.me>

「春秋座サバイバースには カッコいい人たちがいない。」

これは〈演じるシニア企画〉第一弾の公演チラシに書いた言葉です。この言葉は2014年3月、二回の公演本番が終わったとき、僕の中で確信に変わりました。

やっぱり、春秋座サバイバースにはカッコいい人たちがいなかった。

そう思いました。

60歳を過ぎててもなお、新しいことに挑戦し、それを成し遂げたサバイバースたちを見て胸がアツくなりました。

僕も彼らのように生きたいと、心からそう思いました。

ちっぽけな不安とか迷いとか、いつのまにか自分を支配している先入観とか羞恥心とか、くだらないやっかみとか見栄とか、

思い通りにいかないことも、叶わなかった夢や希望も、

そういうものを全部を受け止めて、取っ払って、

新たに見つけたひとつの〈舞台〉に向かって全力で走った彼らのように。

そして今回、そんなサバイバースがメンバーも新たにパワーアップして春秋座に帰ってきます。彼らのエネルギーに触発されて集まった、学生やプロジェクトメンバーもいます。

この『レジェンド・オブ・LIVE II』は、ワークショップ形式でつくる、世界に2つとない演劇作品です。

初めから台本があって、役が決まって、台詞を覚えて上演する、というものではありません。出演者のみなさんと一緒にアイデアを出し合いながらひとつの作品をつくり上げていきます。

稽古が始まるまで、台本も、役も、台詞も、何もありません。

ただひとつ言えることは、

この作品は〈人生〉についての物語だということです。

ひとりの人間の〈人生〉なんて、とてつもなくちっちゃくて、

誰に注目されることもなく、語り継がれることもない、

カッコ良くもないし、ドラマティックでもない、たわいないものなのかもしれません。

けれど、その小さな〈人生〉を、

生まれて、生きて、死んでいく人間たちの姿を、

春秋座という大舞台に、

カッコいい〈伝説〉として、再び、刻み付けようと思っています。

またひとつ、新たな〈伝説〉が生まれる瞬間を、

ぜひ〈LIVE=生〉で体感しに来てください。

表面写真:参加者それぞれの「人生のサバイバル」をイメージして撮影

LEGEND OF IWA



前回(2013年度)の演じるシニア

参加者とワークショップ・稽古を重ねてつむぎだしたオリジナルストーリーで構成。杉原邦生の大胆な美術と春秋座の機構を活かした演出にシニア・学生参加者の熱演が相俟って、終演時には拍手喝采が起きました。※撮影:清水俊洋

前回の来場者アンケート

- 人生経験の豊かな年代と若い力が重なり合って、不思議な世界が作り上げられていて良かった!
- 生き生きとしていて演劇の持つ力を感じ、自分もこの舞台に立ちたいと思った!
- 日常も想像力一つでドラマチックになるんだと思った。エネルギーを貰った!

👉 公演特設サイトでも紹介! <https://www.enjiru-senior.com/>



本プロジェクトの流れ

2017年
募集・面談

2018年
1月～5月

月1回の演出体験ワークショップ
作品創作に向けた出演者ヒアリング
プロジェクトチーム活動開始

7月～8月
稽古

8月25日・26日
本番!

ワークショップレポート!

参加者は2018年1月より4名の若手演出家・振付家による演出体験ワークショップを受講し、舞台作品の創り方に多様な手法があることを身をもって体験。8月の作品創作にその経験を活かします。



ワークショップ講師

柴幸男

(ままごと主宰・劇作家・演出家)

糸井幸之介

(FUKAIPRODUCE羽衣・劇作家・演出家・音楽家)

ごまのはえ

(ニットキャップシアター代表・劇作家・演出家・俳優)

白神ももこ

(モモンガ・コンプレックス主宰・演出家・振付家・ダンサー)

伝説のサバイバースが4年ぶりに帰ってくる! 演出家・杉原邦生 × シニア × 学生 × プロジェクトチームが新たなる〈伝説〉を刻み付ける。